

講義名	情報倫理(経済学科1年生のみ)					授業形態	
担当教員	三谷 哲雄		開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限			
			単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード

主題と概要

- 注意
PDFでは全ての内容が表示されない場合があります。内容は、必ずRYUKA Portalから参照できるシラバページで確認してください。
「備考」を必ず確認してください。
- インターネットの普及に伴い、電子メールでの迷惑行為、Webサイトでの詐欺行為、不正アクセスによる情報漏洩、著作権の侵害、文化摩擦など、日常生活において、これまでにないトラブルが生じている。このようなトラブルを避けるため、「情報倫理」では情報社会で生きるために必要な最低限の知識を身につけることをめざす。

到達目標

受講生は、インターネット社会における加害防止と被害防止のために一人一人に求められる基礎的な資質を獲得することで、情報社会でこれまでも安全に生活することができるようになる。

具体的に、次の3つの目標を目指す。①1項目は、「インターネット社会（あるいは情報社会）において、生活者がネットワークを利用して、互いに快適な生活を送るための増進や保障」である。②2項目は、「生活者がネットワーク社会で思い通りに生活できるように、生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。③3項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。④4項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑤5項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑥6項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑦7項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑧8項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑨9項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。⑩10項目は、「生活者がネットワーク社会で生活する上で必要となる様々なルールや法制度の整備」である。

提出課題

授業の進捗および内容に応じた複数回のレポート課題（宿題として）を予定している。提出方法は、次のとおりである。

- 1) 授業中に課題を提示
- 2) 提示された課題の要件および課題要件を満たすような課題成果物（Wordファイル）を作成
- 3) 次の授業の3日前の13時までキャンパス クロスで提出する（提出用に登録されたレポートにて提出）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

翌授業日の開始直後に個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う予定である。

評価の基準

提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は、提出課題（宿題としてのレポート課題）に40%、定期試験（もしくはそれに相当する課題）に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) オンラインサービスやICT機器の利用
本科目では、授業に関する活動のために、Microsoftが提供している動画共有サービス「Stream」（初回アクセス時に大学の電子メールアドレス(アカウント)とパスワードでログインが必要)を使います。視聴方法は、キャンパス クロスのお知らせにて連絡します。また、授業中に授業に関連するWebページの閲覧や検索を行います。通信の可能なPCやタブレット、スマホなどの端末を持ち込んで構いません。もちろんなくても問題ありません。
- (2) 受講のコツ
講義内容は、音声がよく聞き取れる事柄が多いと思います。しかし、詳しくはとまでは意外と知らないこともたくさんあります。また情報倫理に関わる事柄は多岐にわたります。個々の事柄は簡単でも、非常にたくさんある知識を修得しなければなりません。そのため、自分自身で考えること、知らないことを調べ、調べたことをしっかりとメモを取ってください。知っているかどうかは後で判断してください。授業で得たことと自分の知識や経験と照らし合わせて、自分に必要な知識を自分で見つけ出し、この授業を機会に確実な吸収（記憶）していただくことをお勧めします。

教科書

インターネット社会を生きたための情報倫理 改訂版.	情報教育字研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	495	9784407346213

参考図書

なし。				

その他

授業で利用する資料は、適宜配布する。なお資料は、キャンパス クロスにてPDFファイルとして配布する。参考文献は担当教員が必要に応じて指示する。

資料の入力は、印刷機に行っても、PDFファイルに収録し入ることも構いません。ただし、昨年の受講生の様子を見ても、印刷物の書き起こしでも、PDFファイルの入力は、タブレットPCやペンを使い慣れた受講生の割合は、ほぼ印刷機より手書き入力にしているようです。タブレットPCやペンデストップPCでPDFの入力は、ペン入力できるものでもあればタブレットPCの入力も可能ですが、ペン入力できる場合でもキーボード入力になります。この場合、キーボード入力の方が慣れないといけないと感じるかもしれません。ということで、おすすめは、「印刷物」です。が、これを機会に、PCなどで「ノート取り」にチャリンクしてもよいかもしれませんね。

PDFファイルへの追加や保存などの操作は、WindowsPCであれば、Microsoft EdgeやAdobe Acrobatで可能です。また、Microsoft OneNoteに取込めばさらに自由な書込みやノート作成などが可能です。一方、スマホやタブレット(Windows以外のタブレットでは、大抵アカウント・パスワードで利用できるOneDriveアプリで閲覧・操作ができるようです。なお、Apple社製の携帯端末のブラウザでSafariでは、パスワード設定済PDFの場合、パスワード入力要求されて操作できないようです。OneDriveアプリの利用をお勧めします。

授業計画

- 基本方針
- 到達目標である「情報社会の倫理」や「体系的な知識」とに関しては、6つの講義項目(1)について、教科書と補助教材(2)を使って体系的に学びます。また、「最新の知識」の習得のために、Web記事(ニュースサイトなど)に掲載されているニュース記事や解説記事、コラム記事など(3)を活用して、いまインターネット社会で起きている様々なトラブルの実態やその原因、対策などについて考えます。「レポート課題(提出課題)(詳細は1回目の授業にて説明)」は、授業の進捗に合わせて、宿題としてほぼ毎回実施します。【定期試験】は実施しません。その代わりに、授業全体の総まとめとして「定期試験に代わる2つの課題(詳細は1回目の授業にて説明)」を授業の最終日に実施します。
- (1) 6つの講義項目
インターネット社会(情報社会)における情報の倫理の果たす役割
個人情報の大まかとその扱い方
知的財産を守るために
ネットにおけるコミュニケーションとマナー
情報社会における生活の変化
インターネット社会で安全に過ごすために
- (2) 補助教材
テキスト以外に、補助資料として、社団法人私立大学情報教育協会、情報倫理教育振興研究委員会が製作した「情報倫理教育e教材(ビジュアル資料)」の一部を利用します。また、情報教育学研究会(I E C)の情報倫理教育研究グループの資料も利用します。
- (3) Web記事
本講義のWeb記事は、担当教員自らが集めた情報倫理に関わる関係する記事です。しかも、講義当日までの間にリリースされた「新鮮」な記事です。これらの記事は、担当教員が購読しているメールマガジンやWeb新聞の中から、情報倫理を扱っている旨さに役に立つと思われる記事を抽出したものです。内容の紹介とともに、その要点などを解説します。これは、ほぼ毎回の講義の最初に行います。「とても役に立つ情報」「身近な情報なのに違和感ない」「自宅に居ることで確認した・・・」などと、過去の受講生の言葉です。
- (2) 1回の授業の基本的な流れ(詳細は1回目の授業にて説明)
2回目以降、基本的には次のような流れで授業を進める予定です。講義に関連する資料(PDFファイル)は、1週間程度前までにキャンパス クロスにて事前に配布する予定です。予習動画は、約1週間前までには公開されています。
- 1 予習：講義に関する資料や教科書、予習動画をを使った事前学習
2 授業中：事前学習の内容の要点的再確認、授業に関わるWeb記事の紹介や解説、事前学習の内容を踏まえたWeb記事に関するディスカッションなどを予定(前回の宿題誤りや当日の宿題提示なども含む)
3 復習：資料や教科書などで復習、宿題としてのレポート課題・提出課題の実行・提出
- (3) 動画活用
本科目では、予習動画に加え授業動画も用意します(予定)。授業動画は、授業中の教員のPC画面や音声を取録した動画で、授業の復習用に公開します。必要に応じて活用ください。
- 01 実施スケジュール
01-1 レポート・ディクッション
予習 [2時間程度] : 講義資料の入手や印刷などの受渡準備、講義資料で講義内容の事前確認
復習 [2時間程度] : 授業内容の復習
- 02 -13の授業の進め方
講義項目 - ごとに、次の + の内容を1セットで実施する
- + : 講義項目の事前学習内容の要点的再確認・Web記事の解説・レポート課題提示
+ 予習 [2時間程度]: 指定された講義項目の事前学習
+ 復習 [2時間程度]: 指定された授業内容の復習、事前学習の内容に関わるレポート課題の実施と提出
+ 授業 [2時間程度]: 講義項目の内容を踏まえてWeb記事を使ったディスカッション・レポート課題提示
+ 予習 [2時間程度]: 指定された期間のWeb記事を使った事前学習
+ 復習 [2時間程度]: 授業内容の復習、Web記事を用いたレポート課題の実施と提出
- 02
03
04
05
06
07
08
09
10

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識獲得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実演、フィールドワーク
○ キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

基本的には、講義形式です。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭の〔 〕内に４段階（０～３）に分けて記載する。各段階の意味は、教務部の指示に従った。

- (1) 「ネアカ」のひびくことこれれず、の情をもつた人材
(2) 夢や志を持ち、明日へ行くことにしても物怖しすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。
(3) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
(4) 知識・見識・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
(5) 収集した量々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
(6) 収集した量々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することから、解決すべき課題を提示することができる(課題提示力)
(7) さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた進捗や段階取を明らかにしながら、具体化することができる(構想力)
(8) 創造力(新しい視点と書かぬ発想)を持った人材
(9) 新しい視点と書かぬ発想を生み出すことができる
(10) 自主・自立の精神を持った人材
(11) 物事に自ら進んで取り組むことができる
(12) 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる
(13) 自ら目標を設定し、それを解決に結びつけることができる
(14) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
(15) 物事を成し遂げる能力を磨くことができる
(16) 他者の意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には、講義形式です。講義中に、携帯電話（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や閲覧など行う場合もあります。また、受講生には、講義に関わる発言を求めることもあります。さらに、Web検索や発言のテーマは、事前学習で予習してきた内容に基づくものであり、その意味では、反転授業の要素も含まれます。

実務経験の有無及び活用

備考

- ※ 受講上のアドバイス
- ① 講義に関する情報はRYUKA Portalの随時開示やキャンパス クロス(RYUKA Portalからもアクセス可能)で確認すること
受講者の皆さんへの連絡(講義に関する案内、講義資料の配布、レポート課題の掲示など)は、授業だけでなく、適宜、RYUKA Portalやキャンパス クロスでも行います。講義資料の配布ページには、掲載期間があります。掲載期間を過ぎたら、閲覧やファイルのダウンロードができなくなります。連絡を受けた速やかにダウンロードし、自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください。レポート課題には、提出期限があります。また、レポートを提出した後は、その提出状況を必ず確認してください。
- ② 講義資料